

# 中販連

# だより

2020  
Vol.60

指定生乳生産者団体 中国生乳販売農業協同組合連合会 機関誌

総会特集号



## CONTENTS

- 第20回通常総会報告
- インターネットWebを利用した研修会用動画のご紹介
- 事業経過報告

## 第20回通常総会 ～会長あいさつ～

中国生乳販売農業協同組合連合会  
代表理事長

**岡田 穂積**



本日は中国生乳販連の第20回通常総会を開催致しましたところ、会員の皆様方には大変ご多用のところご出席賜りまして大変ありがとうございます。また、平素は当連合会の事業推進に対しましてご協力を頂いておりまことこの場をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。

昨年は、平成から令和に元号も変わり、新しい時代への大きな期待がありました。年度後半には台風の襲来・豪雨により関東以北を中心に大きな災害が発生し、酪農関係者においても被害が多く発し、いまだ完全な復旧は成し遂げられていない状況でございます。

年明けには、新型コロナウイルスの発生により世界各地にあつという間に感染が拡大して行き、現時点においても拡大が続いている。我が国においても医療を始めコロナの感染防止、また経済対策、雇用対策とあらゆる手を使って経済の回復を目指しておりますが、コロナは非常に厄介であり長期戦になる様相を呈しております。

世界経済においては米中の貿易摩擦が拡大し、新たな冷戦時代に入ったとの報道もあります。

酪農においては改正畜安法2年目を迎え、販売先を自由に選択できるという自由度が拡大した中、色々な動きがあり、この法律の運用については改善に向けて一考すべきではないかとの声が各地から出ていると聞いております。

販連においては、令和元年度生乳生産量27万7千t、前年対比101%、また、4月より学乳を除く飲用発酵乳価格において4円の値上げとなりました。この値上げ額は、要求額からはかけ離れてはいましたが、それなりに生産者に向けて支援になったのではないかと思います。

コロナ禍の酪農業界への影響としては、3月における政府の全学校への休業要請で学乳が停止する緊急事態により、余乳が発生しましたが、中販連実務者は全国連、乳業メーカー等と協調しながら、その販売処理に懸命になって努力した結果、余すところなく販売できたことは指定団体としての機能を十分に発揮し責任を全うしたのではないかと考えております。

生乳需給においては、消費はいたって堅調であり、コロナに関連しては巣ごもり需要の影響により消費も伸びているという皮肉な結果となっております。教育現場では、コロナ休校により夏休みが短縮され8月内に学校給食が始まるところから、梅雨が明けると一気に需給はひっ迫状況になるものと思われます。

会員の皆様におかれても、暑熱対策をしっかりと取って頂いて、乳質乳量ともしっかりと確保して頂きたいと切に希望いたします。

中販連としても、受託生乳の有利な販売に努めながら役職員一同懸命に頑張って参りたいとの思いを申し上げまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

# 第20回通常総会報告

当連合会は、去る令和2年7月29日(水)岡山県農業共済会館において第20回通常総会を開催しました。今年度については新型コロナ禍における社会状況を勘案し、会員のみでの開催としました。

この度の総会では、**1) 第1号議案 第20年度(平成31年4月～令和2年3月)事業報告・決算報告・剩余金処分案、2) 第2号議案 中国生乳販売農業協同組合連合会役員退職慰労金積立規程への変更について**の2議案が上程され両議案とも賛成多数により原案通り承認されました。

以下、本紙においては承認された議案のうち第1号議案について紹介いたします。

なお、2020年度の事業計画につきましては、去る3月26日(木)開催の第17回臨時総会において承認を得ております。

## 第1号議案 第20年度(平成31年4月～令和2年3月)事業報告・決算報告・剩余金処分案

### (1) 総務部関係

ア) 注記事項として、現会員である防府酪農農業協同組合（以下、「防酪」）より、平成27年4～9月までの間アウトサイダー扱いされたとして当連合会のプール乳価との差額（18,425,495円）の損害賠償を求める提起（訴状：平成31年4月24日付）を受けた。

本係争では、当連合会と防酪との員外取引契約が平成27年4月1日までに成立していたか否か（共販体制を前提とした乳代精算の対象とするか否か）が争点となっており、当連合会は係争に際し、訴訟委任代理人として弁護士と委任契約を締結し対応に当たった。

本係争は、山口地方裁判所において審理が開始されたが、令和元年度内の判決には至らず次年度への繰越となった。※令和2年9月24日に判決言い渡しの予定。

イ) 生乳受託販売契約（以下「受託契約」という）の締結について、改正畜安法2年目となる今年度は6会員傘下の酪農家のうち2戸の部分委託が生じたが戸数ベースでは全戸との締結となつた。

また、次年度（令和2年度）の契約締結に当たっては指定団体機能及び契約遵守への理解訴求を図るための重要事項確認書を作成し締結の促進に努めた。

### ウ) 貸倒引当金の戻入

農協法施行規則等に照らして適性を期するに当たり、洗い替え対象リスクが減少したとの判断から貸倒引当金全額を事業外収入に戻入したことにより、当期剩余金が増額した。

### エ) 事務局体制の整備

酪農家戸数の減少、メガ・ギガファームの誕生等による集送乳及び需給調整を巡る環境変化への対応に当たり配乳業務に精通した職員として全国農業協同組合連合会から木下潤職員を出向者として迎えた。

### オ) 信用調査の実施

債権保全対策の一環として帝国データバンクによる取引先の信用調査を継続実施した。

## 力) 機関誌の発行等

情報開示及び広報対策として、機関紙「中販連だより」の発行及びホームページを通じた情報の提供に努めた。

### (2)業務部関係

#### ア) 乳価交渉について

①今年度乳価は生乳生産基盤の維持拡大には家族経営体の維持と再生産が不可欠として全生乳換算7.25円/kgの値上げを要求、交渉の結果、飲用向け（但し学乳向け除く）及び醸酵乳等向け4.0円/kgの値上げが期首からの適用となった。生産者乳価の値上げに伴いその原資は小売価格への転嫁により賄われることとなった。

②次年度（令和2年度）に向けた乳価交渉において、乳業側は期首からの牛乳乳製品小売価格の値上げ、更には10月からの消費増税に伴う消費への影響を見極めたいとの意向から本格的な交渉は11月へとズレ込んだ。

③次年度交渉への取り組みについて11月13日開催の生乳受託販売委員会・理事会では、酪農経営の状況が乳価の上昇及び副産物価格の高止まり等、安定的に推移しているとの判断により全国的な交渉状況も踏まえて「現行価格以上」を要請事項とした。

④乳業側からは、製品値上げと増税による消費影響は見受けられないものの、次年度へ向けて再値上げは厳しい状況にある上、脱脂粉乳の在庫量の増加実態は以前ならば生産調整を要請するレベルにあるとして「据え置き」の意向が強く示された。

⑤交渉は12月～1月にかけて相場形成の主役となる関東・北海道を中心に据え置きによる妥結へと進展した。

当連合会においても2月25日開催の生乳受託販売委員会・理事会にて基本乳価の据え置きは止む無しとし、個別交渉において増産が可能な指定団体としての有利性を通じて実質的な乳価上昇を目指すとりまとめを行った。

⑥交渉過程において、生産者側は需要期における北海道生乳への依存度の上昇実態を踏まえた都府県の需給調整の在り方及び北海道における輸送コストの増加等への対応に当たり、乳業者へのコスト負担を求める新たな要求を提起したが今年度の交渉では合意に当たらず継続協議の位置付けとなった。

#### イ) 新型コロナウイルスの蔓延による酪農乳業への影響と対応について

①新型コロナウイルス感染症が令和2年2月頃から国内で拡大し始め、政府は感染拡大防止のため急遽3月からの学校の休校を実施したことから、学校給食用牛乳（以下「学乳」）の供給停止に伴う生乳流通の混乱により全国を挙げての余乳処理に追われる緊急事態となった。

②各指定団体と全国連は、廃棄乳を発生させないことを第一義に取り組み、加工工場の協力を得ながら全量処理に全力を傾注した。

中国管内では、3月には約1,500 t の学乳向け計画数量が多用途に仕向け変更となり、その内約1,000 t が加工処理となった。

③懸念された乳価への影響は、年度ベースでの基準乳価（プール乳価）が乳価値上げ効果で3.5円/kg程度の上昇予定も3月単月では1.43円/kgの上昇にとどまるうこととなり、年度比較では3.2円/kgの上昇となった。

④3月分の学乳停止に伴う乳価影響に対し、国は緊急的に生産者需給緩和緊急対策事業を設置し乳価下落への補てん措置を講ずる事となった。

---

⑤新型コロナウイルス感染禍の牛乳乳製品消費への影響は、外出自粛が巣ごもり特需を作り出し牛乳・醸酵乳の消費は大幅な増加となった。これに対し外食産業への営業自粛要請等により生クリーム等の業務用乳製品の需要が減退、その結果、バター、脱脂粉乳向け生乳が大幅に増加し、北海道の生産がピークとなる6月に向けて厳しい需給状況が想定された。

このため、国は酪農経営対策や脱脂粉乳の飼料転用等の需給対策に加え緊急的な消費拡大対策設置も検討され次年度への移行とともに農水大臣の陣頭指揮による「プラスワンプロジェクト」を発信し、官民を挙げた種々の消費拡大対策が展開されることになった。

#### ウ) 乳脂肪取引基準の見直し協議について

年々増加する暑熱対策のコスト対応について、乳脂肪取引基準の引き下げが必要として当連合会が主導的に提唱・協議を進め一部の大手乳業からは理解が得られたが、全国的な共通認識の醸成には至らず、当面は生産者団体による意見取りまとめが必要な状況にある。

#### エ) 指定団体機能の整備強化の推進について

①今年度は、燃料代の高騰やドライバー不足に苦しむ生乳輸送事業者に対する経営改善と事業継続に対応するため、生産者拠出を総額で0.6円/kg増額し輸送契約等の見直しを行うと共に5県完全共販体制下での生乳生産基盤の復元に資する原資作りとしての合理化メリットの創出に取り組んだ。

②上半期の終了時点では約2,100万円の共販メリットを創出した。更に下半期の運用予測においても一定程度の共販メリット発生が見込まれたことから、11月13日開催の生乳受託販売委員会・理事会において1,000万円を生産基盤維持拡大対策助成事業の原資に充当し、残余金については、乳代精算システム等の共販体制維持強化に係る費用への充当を決定した。

③しかしながら、下期における増産量の配乳調整及び2月中旬から明治岡山工場の廃止に伴う取引中止生乳の販売のため関西方面への販売数量の増加により共販事業の運用は非常に厳しい状況となった。

④加えて、3月では新型コロナ感染症の蔓延による休校措置の影響から加工処理に仕向けるため熊本県への送乳が大幅に増え単月の共販事業は大きな赤字運営となり、見込んでいた下期メリットの発生は未達成状況となった。その結果、生産基盤維持拡大対策助成事業への支出を差し引いた最終的な共販メリットは10,969,446円となった。

#### オ) 業務推進計画の遂行

①平成27年度に国に提出した業務推進計画の目玉とした乳代精算システムの会員間共用の実施にあたっては、開発会社に選定された両備システムズの協力を得ながら「乳代精算システムあり方検討会」を29回開催し、長期に亘って実現に向けた検討協議を行った。

②検討期間内では、消費税10%への引き上げと軽減税率（8%据え置き）への対応に加え2023年10月実施予定のインボイス制度への対応も行う必要が発生し、軽減税率対応が行えない一部会員の先行利用を目指して開発を急いだ。

③会員段階における討議の積み上げを含めた精力的な検討の結果「統一乳質評価テーブル」が決定し、本年4月分乳代からの統一乳代精算システムを使用した精算業務への移行の日途が立ち、国に提出した業務推進計画に掲げた合理化目標を達成することができた。

④統一乳代精算システムについて、現行システムでの運用が可能な会員についてはハード部門を更新するタイミングに合わせて切り替えの予定となっている。

統一乳代精算システムの完成により、会員段階では軽減税率対応に係るシステム改修費用の節減と将来に亘って発生する維持費の削減等、組織コストの合理化の推進を可能とすることができた。

- ⑤業務推進計画における指定団体機能の強化について、昨年4月からは全農から出向者を迎える、会員段階に一部残っていた配乳業務を当連合会に組み入れた共販体制を強化した。
- ⑥新型コロナ感染症の蔓延防止措置における学校の休校措置が取られた3月対応においては、会員との情報共有及び全国的な協調体制、更には遠距離加工工場への送乳業務についても輸送業者の協力と理解の下に無難に乗り切ることができた。
- ⑦統一乳質評価テーブルの設置に伴う生産者の理解と改善向上技術の普及のため、生産者及び会員職員を対象に各地で研修会やバーンミーティングを開催、延べ46回の講師派遣を行った。行政機関を含めた乳質指導担当者の知識と技術向上についても定期的な研修会も実施した。

#### 力) 広域生乳検査体制の整備強化について

- ①適正な生乳取引と乳代精算の公明性及び乳質改善等に資するための生乳検査業務については、引き続き岡山県畜産協会に委託して実施した。  
　　今年度の検査実績は、格付検査（生乳取引）、配分検査（乳代精算）、細菌検査、牛群検査、依頼検査など合計301,524検体の生乳検査を実施した。  
　　酪農家戸数の減少を背景に格付・配分検査、牛群検査は減少傾向にあり、生乳検査全体で30年度実績より約11,300検体減少した。
- ②生乳検査センターでは生乳検査精度管理委員会（事務局：日本乳業技術協会）の生乳検査精度管理認証（3年ごとに更新）を取得し、令和元年度においても生乳検査精度の維持向上と検査業務の効率化に努めた。
- ③生乳検査センターにおいて検査機器や備品などの使用状況等を確認し、安定した生乳検査業務の運営に支障が出ないよう必要な備品の更新を行った。
- ④本年度より、FFA（遊離脂肪酸）・BHB（乳中ケトン体）の検査体制を整えた。FFAについては、脂肪量で割り戻したBDI値により生乳の風味不良の原因の一つとされる遊離脂肪酸の含有量の指標として主にバルク乳での数値判断として活用し、BHBについては、乳牛の産褥期における飼料給与バランスの指標として活用し、ケトーシスによる風味不良生乳の発生抑制と乳牛の健康維持のため、主には個体乳での数値判断に用いることとしている。
- ⑤また、統一乳代精算システムの構築に伴い乳成分検査値の会員並びに生産者へのフィードバックを迅速に行えるようシステムを強化し、希望する生産者へのメールによる通知機能や過去成分値の閲覧機能、乳質乳成分の全体分布グラフのホームページ上の閲覧並びに統一テーブル基準の採用に伴って設けた加算ゾーンの単価確認などが行えるようにした。
- ⑥初産牛や治療牛の出荷確認のための抗生物質検査についても、Web上で記録を行えるよう対応し、その記録を印刷保存することで生乳生産管理チェックシートへの記帳を不要とする対応も行った。

#### キ) 畜安法に基づく生乳出荷目標数量

新たな補給金制下において補給金交付対象事業者毎に設定される生乳出荷目標数量は、交付対象事業者が農林水産省に提出した年間販売計画に基づき通知されることとなり当連合会には275,000 t が今年度の目標数量として通知された。

この目標数量に対する達成状況は、受託数量ベース（農家バルク・集乳量）で277,077t、前年度比101.0%、また、乳業者への販売数量ベース（乳業者受乳量）で276,589t、同101.0%と前年度及び目標数量共に完全達成した。

#### ク) 生乳の受託状況

今年度受託数量277,077t（前年度比101.0%）の期別の動向としては、上期が大型農家の部分委託（買い取り業者）の増加及び廃業に伴う減少により135,746t、前年同期比98.3%の前年割れとなつたが、他方、上期内における規模拡大推進者の出現を背景に下期は141,332t同103.7%、と大幅に増加した。

#### ケ) 生乳の販売状況

- ①今年度販売数量276,589t（前年度比101.0%）に係る販売環境としては、下期における生乳生産の増加と2月中旬からの明治岡山工場の閉鎖に伴う域内需要量の減少への対応に当たり販路を関西へとシフトさせたことから、下期から域外販売量が急激に増加した。
- ②その結果、販売数量の内訳は域内販売量253,208t、前年対比98.9%、域外販売量23,382t、同131.6%となり、販売比率は域内91.5%、域外8.5%と域外が前年度に比べ2ポイント上昇した。

#### コ) 用途別販売量の状況

今年度における用途別販売実績は主要販売用途である「飲用牛乳向け」が前年対比100.4%（学乳含む）となった。その他の用途では「醸酵乳等向け」が同101.1%、「生クリーム向け」が同95.0%、「チーズ向け」が同99.3%となった。

用途実績に見る特徴は、新型コロナウイルスの感染拡大により、3月における休校影響から「学乳向け」が減少し93.4%となった。「加工向け」は需要期における異常気象等による需給変動と3月の学乳向け余乳処理による加工処理の増加によって前年対比で118.2%と増加した。

#### サ) 酪農理解醸成事業について（「MILK●JAPAN」の取り組みの実施）

- ①会員が実施する酪農理解醸成イベント、乳和食の講習会開催等を支援した。また、牛乳・乳製品の知識普及と消費促進のため乳和食指導者育成講習会を開催した。
- ②酪農理解醸成と牛乳消費拡大を図るため、中国地区におけるリーフレットを作成し、ミルクジャパンの推進ツールと合わせて配布した。
- ③第9回中国地区牛乳・乳製品料理コンクールを令和元年11月16日に岡山県学校給食会で開催した。応募総数1,593点の中から県予選を勝ち抜いた10名（2名／県）によるコンクールの結果、最優秀賞には「みるく親子丼」の松本藍里さん（岡山県）が選ばれた。
- ④酪農教育ファーム認証牧場（管内23牧場）を拠点として、一般消費者に対し酪農体験学習等を通じた理解醸成に取り組んだ。

#### シ) 生乳安全安心確保対策

- ①中販連独自の様式による生乳生産管理チェックシートへの記帳記録の全戸実施に取り組むと共に、前年度と同様に生乳への混入のリスクのある殺菌・消毒剤等の適正使用の普及啓発に努めた。

上記の実施状況を確認するためにJミルクが行う農薬等の残留に係る生乳の定期的検査結果については、管内の全サンプルにおいて基準値を下回った。

②平成28年に規制値が設定されたアフラトキシンM1について、消費者の安全・安心を確保する観点から、前年度までに引き続きJミルク主体による検査を実施した。

今年度は管内1県における検査を実施し、検査結果は全サンプルにおいて基準値を下回る陰性判定となった。

## ス) 補助事業への取組み

行政・農畜産業振興機構及び中央酪農会議の指導を仰ぎながら補助事業に取り組んだ結果、実績総額は243,920千円となった。

貸借対照表 第20年度(令和2年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	
流動資産	2,908,104,900	流動負債	2,640,328,272
現金	324,666	受託販売未払金	2,428,709,770
預金	309,408,260	受託販売費用未払金	68,138,380
系統預金	301,041,916	未払生産者補給金	57,911,845
普通貯金	171,041,916	雑負債	83,835,722
定期貯金	130,000,000	未払金	31,271,471
系統外預金	8,366,344	法人税等充当金	4,644,400
事業未収金	2,544,526,840	事業預り金	47,918,851
受託販売未収金	2,486,614,995	仮受金	1,000
未収生産者補給金	57,911,845	賞与引当金	1,732,555
雜資産	53,845,134	固定負債	196,497,847
未収金	46,615,807	受入保証金	188,189,265
仮払金	7,229,327	役員退任慰労引当金	8,308,582
貸倒引当金(△)	0	負 債 の 部 計	2,836,826,119
固定資産	53,717,350	(純資産の部)	
有形固定資産	9,703,754	出 資 金	21,000,000
工具器具備品	9,703,754	利 益 準 備 金	39,350,000
無形固定資産	40,547,596	当期末処分剰余金	64,646,131
電話加入権	218,400		
ソフトウェア	40,329,196		
外部出資その他資産	3,466,000		
系統出資	2,000,000		
敷金	1,466,000		
資 产 の 部 合 計	2,961,822,250	会 員 資 本 合 計	124,996,131
		負債及び純資産の部合計	2,961,822,250

## 損益計算書 第20年度(平成31年4月1日から令和2年3月31日まで) (単位:円)

科 目	金 額			備 考
1 事業総利益			89,059,112	A
(1)販売事業収益		36,616,003,628		
受託生乳販売高	34,848,337,173			
受託販売手数料	72,040,112			
受託業務受託料	1,633,049,866			
広域検査受託料	62,576,477			
(2)販売事業費用		36,526,944,516		
生乳受託受入高	34,849,190,114			
販売業務委託料	1,624,449,594			
広域検査委託料	53,304,808			
2 事業管理費			89,294,394	B
(1)人件費		54,125,293		
(2)業務費		18,819,447		
(3)諸税負担金		6,431,750		
(4)施設費		16,803,261		
(5)他勘定振替		△6,885,357		
事 業 利 益			△235,282	C=A-B
3 事業外収益			304,812,484	D
(1)受取利息		13,474		
(2)雑収入		2,036,463		
(3)受取出資配当金		30,000		
(4)受入補助金		96,074,111		
(5)受入生産者補給金		147,078,436		
(6)貸倒引当金戻入		59,580,000		
4 事業外費用			201,113,229	E
(1)寄付金		600,000		
(2)支払補助金		57,934,793		
(3)支払生産者補給金		147,078,436		
(4)システム構築費		△4,500,000		
事 業 外 利 益			103,699,255	F=D-E
経 常 利 益			103,463,973	G=C+F
5 特別損失			33,467,450	H
(1)圧縮損		33,467,450		
税引前当期利益			69,996,523	I=G-H
法人税、住民税及び事業税			4,650,526	J
当期剰余金			65,345,997	K=I-J
前期繰越剰余金			△699,866	L
当期末処分剰余金			64,646,131	M=K+L

## (3) 剰余金処分について … 任意積立金「共販体制持続安定対策積立金」を設置

当期末処分剰余金64,646,131円については、以下表1（「剰余金処分計算書」）の処分案とする。

また、任意積立金の名称、積立目的、積立目標額、積立基準、及び取崩基準については、以下表2の内容とする。

なお、次期繰越金には、定款第57条に基づく「会員又は会員の組合員の酪農業の経営及び技術の向上に関する指導」に充てるための繰越額380,000円が含まれる。

表1 第20年度(令和2年3月31日)剰余金処分計算書  
(単位:円)

科 目	金 額
1 当期末処分剰余金	64,646,131
2 剰余金処分額	57,068,100
(1)利益準備金	2,650,000
(2)任意積立金	54,418,100
3 次期繰越剰余金	7,578,031

表2

目的積立金の名称	積立目的	積立目標額	積立目標額	取崩基準
共販体制持続安定対策積立金	持続的に安定した共販体制を維持するために以下の損失の発生もしくは支出に充てるための積立金 ①乳代回収不能に伴う損失 ②自然災害発生等に伴う集送乳経費の掛りまし ③乳代精算システム等の減損損失	400,000千円	共販体制の維持の観点から、取引先乳業における販売乳代回収不能状態が生じた場合の乳代支払い、自然災害発生等に伴う域外搬送等の集送乳CS経費の掛りまし等の一時的な経費支出の増高への対応に備えるために積み立てる。	損失の発生・支出の総額が1千万円以上の場合に限り、理事会の決議によって相当額を取り崩すことができる。



# インターネットWebを利用した研修会用動画のご紹介

当連合会では、今年度事業計画において中国地域管内の酪農家・指導担当者研修を計画しておりましたが、新型コロナウイルス禍による集団や県域を越えた現地研修会などの実施が難しいため、インターネットWebを利用した研修会用動画を作成しましたのでご紹介します。

動画は先ず中国管内の酪農関係者に開放することにしており、酪農家の皆様には経営改善の参考に、会員及び指導機関におかれでは担当職員の育成教材として有効活用していただければ幸いです。現在アップロードしている動画は以下のとおりです。スマートフォンのQRコードリーダーをお持ちの方は下記のQRコードを活用してください。

◆搾乳手技編  
(16分程度)



◆ミルカ一洗浄編  
(13分程度)



◆暑熱対策編  
(22分程度)



◆ラクトコーダー編  
(20分程度)



## 撮影内容

撮影した動画は、搾乳現場における指導事例を基に撮影者の同意を頂き出来るだけ個人の特定ができないよう配慮しております。約15～20分程度に集約して編集しております。

## 視聴方法

You Tubeにて動画配信しておりますので、指定のQRコードを読み取るかURLをインターネット接続可能のPCまたはモバイルパッドや携帯電話に入力して頂くことでご視聴が可能です。

## You Tubeとは

基本は無料で、多くの動画を見ることが出来ます。一般的に動画の視聴にはYou Tube上での検索などで直接視聴できるものや、特定のサイトやURLを経由しないと視聴できない限定公開版がありますが、今回は限定公開しております。

## 動画配信内容とURL

### 1. 搾乳手技編

<https://youtu.be/YxKroIn-lOw>

乳房炎でお困りの方必見。正しい搾乳手技が乳房炎の新規感染を減少させる効果があります。動画では搾乳手技を実践した場面もあります。言葉で説明するより、視聴してもらうことでより理解が深まることを期待しております。

#### 搾乳手技編(乳房炎対策)

- ・乳房炎とは
- ・搾乳手技
- ・ライナーゴムの重要性



#### 搾乳初心者が搾乳してみます！



#### 搾乳初心者が搾乳してみます！



### 2. ミルカー洗浄編

<https://youtu.be/8ax-rhc6naM>

洗浄の重要性と盲点について説明しています。洗浄状態と乳房炎は深い関係があります。洗浄を確認してみると、自動洗浄を過信し頼りすぎている酪農家さんも多く、ミルカー設置当初から変更したことが洗浄に反映されていない場合もあります。温度、濃度の確認は専用の機械が無くても簡単にできます。この動画を見て、やり方が分かったらすぐに調べてみましょう。

#### ミルカー洗浄編

- ▶ 洗浄の濃度
- ▶ バケットの洗浄



#### 適正な濃度で洗浄をしますか？



#### バケット洗浄が重要(乳房炎対策)



### 3. ラクトコーダー編

<https://youtu.be/X8S2DNOni5o>

検定器具の洗浄とラクトコーダーを使った洗浄と搾乳手技の確認について説明しています。洗浄不良はグラフで確認する事ができますし、搾乳については遺伝的な改良、機器の不良、搾乳手技など多岐にわたって分かれます。今回は搾乳手技について説明しています。



**ラクトコーダー編**

- 検定器具の洗浄
- ラクトコーダーで洗浄点検
- ラクトコーダーで搾乳手技確認

フロートや浮き水弁などが故障している場合もありますので  
洗浄を定期的に確認しましょう。

### 4. 暑熱対策編 <https://youtu.be/ryxfPcGL92I>

近年の温暖化での気温が30度を超える日が1ヶ月以上続くこともあります。牧場で働く人にも乳牛にも暑熱対策は必須です。乳牛の快適性を考えて飼養環境を改善している牧場では暑熱時の乳量、乳成分の落ち込みが少ないことが分かっています。効率的な暑熱対策は換気扇を使って体熱放散を促すことですが、今回は換気扇の取り付け方法などについて説明しています。



**暑熱対策編**

- ▶ 体熱放散とは
- ▶ 換気扇の取り付け方法

場所によって角度が変わっていることがあります。風のリレーが途切れてしまう原因となります。

URLにつきましては入力のお間違いが無いようご確認ください。

また、最近海外の研修生を受け入れしている牧場も多く、You Tubeの設定を変更することで各国の言語で字幕を入れることもできます。この度は搾乳手技編のみ字幕変更に対応しております。但し、自動翻訳なので正確な翻訳になっているか確認しておませんのでご承知の上ご利用ください。

## 字幕の言語を変更する方法

Web講演（搾乳手技編）2  
乳頭へのアプローチ（搾乳時間）

ユニット装着できていますか?

ユニット装着が遅くなると搾乳速度が上がりらず搾乳時間も延長します。

2分 搾乳へのアプローチは搾乳時間と直結しています  
搾乳刺激後に約2分でオキシトシンは最大量に達します

NEW VIDEO 3:20 / 16:23

字幕 (c) HOSTY

1 字幕アイコンをクリックします。  
2 日本語で字幕が出ます。

は最大量に達します  
3 設定アイコンをクリックします。

4 字幕 日本語を選択してください。

5 動翻訳を選択してください。

6 複数の言語が選択できます。  
7 今回は英語を選択しました。

8 字幕が英語になりました。

The approach to the teat is directly linked to the milking time. Maximum amount of oxytocin is reached in about 2 minutes after milking stimulation.

自動再生  
再生速度 標準 >  
字幕 (1) 日本語 >  
画質 自動 720p >

オフ  
✓ 日本語  
自動翻訳

ラトビア語  
リトアニア語  
ルーマニア語  
ルクセンブルク語  
ロシア語  
英語  
韓国語  
西フリシア語  
中国語 (簡体字)  
中国語 (繁体字)  
南部ソト語  
日本語

字幕 (c) HOSTY

なお、本動画は消費者に向けた動画ではありませんので、SNSなどのURLの拡散にはご注意ください。予告なく配信を中止することもありますので、ご理解お願いします。

## 1. 生乳受託実績の推移

(単位: t、%)

	4月		5月		6月		7月		合計		構成比	戸数
	数量	前年比										
大山乳業	5,318	103.9%	5,484	106.6%	5,040	105.0%	4,992	104.3%	20,835	104.9%	22.6%	109
J A 島根	6,188	110.1%	6,456	111.8%	6,118	111.2%	6,182	110.3%	24,944	110.8%	27.0%	85
おか酪	8,573	111.6%	8,838	112.6%	8,302	112.4%	8,205	111.1%	33,918	111.9%	36.8%	196
広島県酪	3,623	99.6%	3,752	100.7%	3,575	101.3%	3,904	109.6%	14,855	102.7%	16.1%	112
山口県酪	842	95.2%	858	95.6%	782	94.9%	750	94.9%	3,232	95.1%	3.5%	32
防府酪農	431	95.2%	447	99.1%	410	101.0%	400	99.2%	1,689	98.6%	1.8%	14
中販連計	24,976	106.7%	25,836	108.3%	24,227	107.9%	24,433	108.4%	99,472	107.8%	107.8%	548

※実績値は、農家発乳量を使用。

## 2. 用途別販売実績の推移

(単位: t、%)

	4月		5月		6月		7月		合計		構成比
	数量	前年比									
飲用向	17,530	112.6%	18,624	120.2%	15,802	109.4%	16,432	109.8%	68,388	113.1%	68.8%
学乳向	660	45.4%	581	27.8%	2,538	111.9%	2,169	139.8%	5,948	80.8%	6.0%
醸酵乳向	4,931	102.8%	5,393	107.2%	5,300	103.8%	5,320	101.0%	20,944	103.7%	21.1%
生クリーム向	327	90.7%	277	98.0%	221	75.8%	212	78.9%	1,038	86.2%	1.0%
チーズ向	24	73.2%	25	76.7%	31	102.8%	34	90.3%	113	85.7%	0.1%
加工向	1,503	126.4%	936	102.1%	335	108.0%	266	59.8%	3,040	106.3%	3.1%
合計	24,976	106.7%	25,836	108.3%	24,227	107.9%	24,433	108.4%	99,472	107.8%	100.0%

※実績値は、農家発乳量を使用。また5県共に公共機関を含む。

※農家発乳量とメーカー着乳量の差分は飲用向けで調整。

## 3. 生乳需給実績の推移（域内・域外）

(単位: t、%)

	4月		5月		6月		7月		合計		構成比
	数量	前年比									
域内販売	20,936	96.5%	22,409	100.7%	21,777	102.8%	22,320	105.3%	87,441	101.3%	
域外販売	4,059	236.5%	3,367	216.8%	2,406	196.3%	2,048	158.4%	11,880	205.2%	
合計	24,995	106.8%	25,776	108.3%	24,182	107.9%	24,368	108.3%	99,321	107.8%	
	構成比		構成比		構成比		構成比		構成比		
域内販売	83.8%		86.9%		90.1%		91.6%		88.0%		
域外販売	16.2%		13.1%		9.9%		8.4%		12.0%		
合計	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		

※令和2年度及び令和元年度実績との販売実績（メーカー着乳量）比較。



#### 4. 令和2年度 基本乳価推移

(单位: N/kg)

	4月	5月	6月	7月	合計
R2	受託乳量(kg)	24,975,657	25,835,943	24,227,244	24,433,059
	基本 乳価	113.54	114.06	115.88	115.71
	成分 加算	2.44	2.27	2.08	1.98
	補 給 金 等	0.53	0.53	0.53	0.23
	合計 (a)	116.52	116.86	118.49	117.91
R1	受託乳量(kg)	23,400,837	23,848,724	22,450,707	22,534,451
	基 準 乳 価	113.77	114.45	115.27	114.48
	成 分 加 算	2.37	2.08	2.01	1.89
	補 給 金	0.54	0.54	0.54	0.29
	合計 (b)	116.68	117.07	117.82	116.67
前年との比較(a - b)	-0.17	-0.21	0.68	1.24	0.37

※乳量は、農家発乳量を使用。また5県共に公共機関を含む。

※R2年度の成分加算にはジャージープレミアムを含む。

## 5. 学校給食用牛乳の供給停止に伴う価格差対策補てん金交付

前号（Vol.59）にも一部記載しておりますが、令和2年3月及び4月において新型コロナウイルス禍による学乳供給停止に伴う価格差対策補てん金が1四半期遅れて交付されます。

価格差補てん金交付前後の3月及び4月における前年との価格差は下表の通りです。

(单位: N/kg)

	前年との価格差(A)	補てん金単価(B)	補てん金交付後(C=A+B)
令和2年3月	1.52	1.46	2.99
令和2年4月	-0.17	0.50	0.33

\*表1から表5の各実績表において、端数処理により合計不一致の箇所あり

4月	14日	中国生乳販連 第1回監事会(岡山市)
16日	中酪 指定団体実務者会議( web形式)	
17日	中国生乳販連 第2回監事会(岡山市)	
23日	中酪 生乳需給の情報共有会議( web形式)	
28日	中国生乳販連 第1回理事会( web形式)	
5月	第3回監事會( web形式)	
6月	7日 中酪 生乳需給の情報共有会議( web形式)	
21日	中国生乳販連 第2回理事会( web形式)	
27日	中酪 生乳需給の情報共有会議( web形式)	
28日	中酪 生乳需給の情報共有会議( web形式)	
7月	4日 中酪 指定団体実務責任者会議( web形式)	
8日	中酪 生乳安全安心担当者会議( web形式)	
10日	中国生乳販連 第3回理事会( web形式)	
22日	中国四国酪農大学校 評議会(岡山市)	
23日	中酪 指定団体実務責任者会議( web形式)	
2日	中国生乳販連 第4回理事会(岡山市)	
6日	中酪 生乳需給の情報共有会議( web形式)	
15日	中国生乳販連第5回監事会(岡山市)	
16日	中酪 生乳安全安心担当者会議( web形式)	
29日	中酪 生乳需給の情報共有会議(岡山市)	
31日	中酪 理解醸成担当者会議(岡山市)	
	中国生乳販連 第6回理事会(岡山市)	
	第20回通常総会	

## 事業經過報告（令和二年四月～七月）